出会い　ふれあい　助け合い

サロン・あべの

<サロン・あべの>NO．１９　　昭和６３年　１月１６日（土）発行

（手づくりの、ハッピー・クリスマス）

<サロン・あべの>１２月の出会い

ちょっと早目のクリスマス、<サロン・あべの>１２月の出会いが、育徳コミュニティーセンター２階研修室で１２月５日（土）１時から開かれた。

クリスマスメロディーが流れる中、サロン自慢の手作りの色彩やかなロウソクの灯がゆらめいて、クリスマスムードあふれ、部屋中メリークリスマス。

壁に大きなサンタの壁掛け、白いクリスマスツリーの赤青のライトが光る中、２９名ひとりひとりがクリスマスの顔に輝いた。

あけまして　おめでとう　ございます

旧年中は、何かと<サロン・あべの>にご支援・ご協力を賜りまして、ありがとうございました。

おかげさまで、サロン例会はお顔なじみのご出席が増え、月々の出会いが嬉しくなってまいりました。又、サロン紙も読むのが楽しみで、と心待ちにして下さるお声を聞かせていただけるようになって、委員一同ありがたく感謝しています。

皆様に親しまれる地域のサロンとしての場作りを通して、障害者の問題を考えると共に、ふれあいの中から共に地域で生活している仲間として、助けあっていけるコミュニケーション作りをしていきたいと、考えています。

どうぞ、本年もご指導ご鞭たつのほど、よろしくお願い申し上げます。

<サロン・あべの>運営委員一同

部屋中メリークリスマス

辻本輝子さんの司会で始まり、冨田慶子さんの開会の挨拶につゞいて鹿野敬一さんの音頭によりシャンパンで〃カンパイ！〃

しばし、みなさん三三五五歓談。気分が和んだところで、大島功さんが〃一枚のハンカチから〃できる・ネズミ作りを伝授。正方形のハンカチを三角に折り、くるりと巻いて、手を加え一匹のネズミの出来上り。

大島さんが二、三度このネズミの頭をなでると、あたかも生きているかのように、ピョンと前へ跳び出す。みなさん見よう見まねでネズミ作りに挑戦したが、大島さんにまでは大分修業がいりそう。

つぎに、阪田富子さんが〃四季の歌、おじいさんの時計、ドレミの歌〃等を歌って持ち前の美声を披露。そのあと飛び入りで河合、旭、安達さん方も加わってメドレーでクリスマスメロディーを阪田さんと合唱。輪が拡がってみんなも楽しくにぎやかに唱和した。

舞台は一転、長沢あや子さんの大正琴で〃さくらさくら、荒城の月、まりと殿様〃等なつかしい響きの演奏にかわる。レトロの音色に併せて小倉寛一さんが〃黒田節、さざんかの宿〃を、突然とはいえしぶいのどを聞かせてみんなから大きな拍手。

プログラムが進み、本日おまちかねの、小倉さんの手品のかずかず。・折った新聞紙に水を入れたり、ミルクを入れたりするが、広げると何も無い。濡れてもいない。・参加者の人に千円札を借りて割バシにはさみ、火をつけて燃やしてしまう。「あ～」と息をのんでいると、内ポケットから封筒を取り出す。口封をやぶいてとりいだしたる千円札、まさしく先程の千円札。あ～らふしぎ。拍手が起る。・〃筆接点当て〃は、後ろをむいていて、こちらの人が筆の上・中・下どこをさわったか当てる芸も、あざやかなもの。百発百中だった。最後は、・〃おわんがえし〃三個のおわんと小さなおじゃみとのかくれんぼ、出たり入ったり、目を見開いて一心に見つめていても解らない。「〃チュウリップの歌〃をみんなで歌って下さい、その歌声が大きければ大きい程おわんの中のおじゃみが育つ」とか…。パット開けるとおわんいっぱいに大きくなったおじゃみが出て、ヤンヤの喝采。ふしぎふしぎな手品のお手並みは正に玄人はだしと、感心のため息がもれた。

この後、紅白に分かれてのゼスチャーゲームは双方演技力が抜群で勝負なし、仲よくジャンケンで決着。それぞれに賞品が贈られた。

盛り上がったところで、旭さんの指揮で

手話コーラスを全員童心に返って大きな声で歌っているところへ、大島さん粉するサンタさんが大きな袋をかついで〃メリークリスマス！今年のサンタはヒゲがないから若くなったのよ〃とにこやかにプレゼントを手渡して、会はクライマックス。

参加者みんなで準備をし、飾りつけをし演じ、歌い、語った今年の手作りクリスマスは、初めての人、顔見知りの人等、ちょっとぎこちない始まりではあったが時間が経つ程に、なごやかに笑い声が起き歌声も大きく響いた。最後に全員で蛍の光を歌い、記念写真を撮って閉会となった。

みなさんからのこの日のよせがきは三・四・五頁に掲載。

クリスマスに参加して
やがて すぐ
八十路の坂を
紙さんとす
若き人との
ふれあいうれし
小倉寛一

向寒の折から、ご自愛下さいます様。
鹿野敬一

いつものことですが、思いきり
めいっぱい はしゃいでしまいました。
1年間のストレスが いっぺんに
ふっとんだようです。
楽しかった。
Junko. Ashi

ほとんどの方が 初対面で
あまりお話もできませんでしたが
楽しかったです
また参加させてください
よろしくお願いします
浅井真佐子

クリスマスの集いに始めて参加させてもらいました。皆さん大変明るく楽しそうに思います。
倭 博司

今日は24名様のうち殆ど人数の為
味もにぎやかに一刻を過ごしたと
思います。敬老と言えばプログラムの
進行ともうまくスムーズだったかでして
良かったと思う。
(佐)

たのしいクリスマスパーティでした。
どうもありがとう。
来年もまた参加したいと思います。

川西貴久

皆様とご一緒に楽しくクリスマスの集いに参加させて頂き、ありがとうございました。

みどり

藤井寺市道明寺1-19-30

佐々木保

0729-54-4702

クリスマス祭りに始めて参加させて頂きました。皆さん仲よく明るく楽しかったです。会合だと思います。コーラスも文化祭しばらくぶりに聞かせて頂きました。

佐藤あせみ

場所を広く、簡単な楽しいゲーム作りをすれば、もっと良いと思います。

本庄英子

Merry Christmas!

地上にある者すべてがしあわせになりますように…。

楽しいクリスマスをありがとうございます。

楽しかったです

大勢は少なかったけど

すみずみまで

目がとどいた

と思います

山本アヤ

今日のクリスマスは、皆さんが色々なうくし芸を見せてくれて楽しい一日が過せてよかったです。

高尾登男

今日はとても楽しかったです。取材と言う事で1回目に来た時よりも自分から話しを聞けました。今日の事を無駄にしないよう私なりに頑張って行きます。

ありがとうございました

加治みすず

ハッピー
クリスマス

石田 律

楽しくすごさせて頂きました。各自何か(歌とか)が出来る様になれたらいいと思います。私も特技何かお出来る様にして又参加させて頂きます。

ありがとうございました。

阿南町2-1-21号 南荘

Tel 623 8185

安達南子

人生は　考えること
そして　行うこと
（このようなサロン作り、
益々　がんばって下さい。）
大島　功

和やかなたのしい一時でした。和気あいあい
陶芸の手台の上手な皆さん。皆さん楽しく歌
とおりにて楽しい一時でした又来年を楽
しみにしております

楽しかった。
来年

楽しい一日でした
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

これからも、視力の障害者の参加が、もっと多くなるように、いろいろ考えて下さい。
板子初子

盛財帖らやたましい一日でした 手台の良かったです。

メリー クリスマス！

絵上参加 来年もガンバッマス。
石田美樹子

去年にも勝して楽しく和やかな集りでございました。出席の明るい表情からかもされる春風は会場の気温をいや更に上げまして老いた私も一刻出席の中に解けこませて頂きました歌もとても楽しかったです。わがまゝの歌詞を作って毎日音唱したら等と思いが脳ふくみました。

言葉しの師走の空を乗いきて
心ゆたかに和みゆきたり
街うなく気取りなく今日を笑い合う
若き人らに心慈かう

金子花江

今日は、とっても楽しい、
ユニークな、クリス
マス会、ありがとう
ございました。
来年は、運営委員にも、
さんかできるように、
時間をとって、よせて
いただきます。
渡辺智佳代

十二月五日・クリスマス会の日、みなさまからお寄せいただいたメッセージを、そのまま縮小して、また、口頭でお寄せいただいた方のは、ワープロで打って、それぞれ掲載いたしました。
なお筆記具の種類、色などによって刷り上がりにムラがありますが、お許し下さい。
（敬称略・順不同）

皆様の暖い愛とほほえみ
いっぱいの楽しい一時でした
ありがとうございました

辻本婦子

メリー・クリスマス
今年一年
楽しく過させて
いただきました。
来年もよろしく
お願いします。
冨田慶子

グループでの物事の決め方

グループ活動でもっとも難しいことのひとつは、グループの目標を決めることでしょう。みんなの意見や気持ちが反映された目標が立てられないと、グループは失速状態になってしまいます。

少数の人が決めてしまわず、みんなが話し合って決めることが大切なのですが、それがわかっていても実際にはそうならないことがしばしばあります。その原因の多くは話合いの進め方にあるようです。

ひとつの例をあげてみましょう。あるグループで次の年度の目標を決めようとして意見を求めると「ハイキングがしたい」という声があがりました。それに対して「前のハイキングは歩くのが長すぎた」「こんどはバスの方がいいね」「バスで行くのだったら〇〇公園がいい」「いや、ハイキングは疲れるからイヤだ」という意見がでてきます。それで結局、次の年度の目標を決めようとしているのに、一〇分も二〇分もハイキングについて話してしまいます。たまたま最初に出た意見に左右されて、全体の流れがごく限られた話題に集中してしまうのです。

こういうことにならないためには、まず「話し合いに区切りをつけること」そして「提案を求める場合は、その提案のひとつひとつに対する意見はまとめて後の時間に言うことにする」という原則が必要だと思います。

ここで、わかりやすい例として、次年度のプログラムを決める方法のひとつを紹介しましょう。

まず最初に「年度目標」を決めます。

司会者が「誰からでも何でも言ってみてください」と言うと、誰かが「もっとみんなのことを知りたいな」という意見を出したとします。すると黒板の前に立っている人が「もっとみんなのことを知りたい」と書きます。「親睦」とか「交流」とかいう言葉にまとめてしまわずに書くところがポイントです。

そして「みんなって、運営委員のことなのか、それともサロンに来る人全員のこと？」という質問が出たら、司会者は「いまは年度目標を提案してもらっている時間なので、ひとつひとつの検討は後にして下さい」と言います。また「あなたはどちらの方がいいのですか」と聞き直してもいいでしょう。その人が「運営委員同士もっと知り合いたい」と答えると、それをそのままま黒板に書くようにします。

要するに、互いの意見に対する意見は取り上げないで、次々に思いついたことを自由に発言します。言われたことはすべてなるべくそのままの形で黒板に書いていくようにします。まとめる必要はないのです。順々に左回りに発言する方法もいいでしょう。このような方法で意見を出し合うことを「ブレーンストーミング」といって、企業や研究所では非常に有効な手段として使われています。

さて、こうして案が二〇－三〇ほど出そろって、もう出尽くしたかと思われたなら、その案を見比べて、内容が近いと思われるものを線で結んでみます。それはみんなで話し合いながら、時間をかけて結んでいくのです。そして結んだいくつかの案をまとめる新しい案をひとつ作るようにします。その新しい案は、前の案の内容をできるなら全て含んだ内容の豊かなものでなくてはなりません。ですから、簡潔にまとめる必要はないのです。例えば前の二つの案をまとめるなら「運営委員も含めた、みん

なともっと知り合いたい」というようにするのです。

そうしていくと、五つか六つの案が残ることでしょう。そして、この五つか六つの案を見比べて、どれを優先すべきかどうかを考えます。メンバーが一番求めていることは何なのか、グループの力量から考えて一番取り組みやすい案はどれなのか、という観点から考えて、最優先のもの、次にまわすものを決めます。残りの案は来年にまた検討するために、きちんと記録しておきます。

さて、こうして「年度目標」が決まりました。次は「こういう年度目標からどんなプログラムを立てたらいいですか」と司会者がたずねて、また「ブレーンストーミング」をします。でてきたプログラムの案の優先順位を決めて、みんなが参加しやすい月から、そのプログラムを当てはめていけばよいでしょう。

なお、こうしたことをする前に、前の年度の反省会を一日とって行なう方がよいでしょう。そのとき、グループの恒例行事（クリスマス会等）として残しておきたいものを選んでおきます。また「年度目標」からプログラムの優先順位を決めるところまでは、段階ごとに日を改めた方がいい案がでてくるものです。さらに、最も大事なことは、グループで物事を決めるときには「多数決の原則」は使わないことです。少数の意見を尊重し全員が納得するまで話し合うことが大切です。（知）

お知らせ

＜サロン・あべの＞二月の出会い

日時　昭和六三年二月二十日（土）
　　午後一時～四時

場所　育徳コミュニティーセンター二階
　　研修室（スロープ・車いす〜〜有）

内容　「韓国・ハワイ・日本の障害者
　　みたま〜」
　　講師　南光龍平氏

会費　なし

連絡先　電話06－691－1028
　　（冨田　慶子）

日々のよろこび添えて
＜サロン・あべの＞に贈る〃灯〃
十二月のカンパ合計一五五〇〇円
ありがとうございました。

訂正

サロン・あべの紙NO.18.九頁三段目右から五行目．「…いけるケースも含めて、基本的に自立すると…」の誤りでした。訂正しておわびいたします。

自立（3）

今回は、腕・センスともに、バリバリのテーラーとして、ご活躍の辻本輝子さんに、障害を肥に、職業的自立をなした経緯を語っていたゞきました。

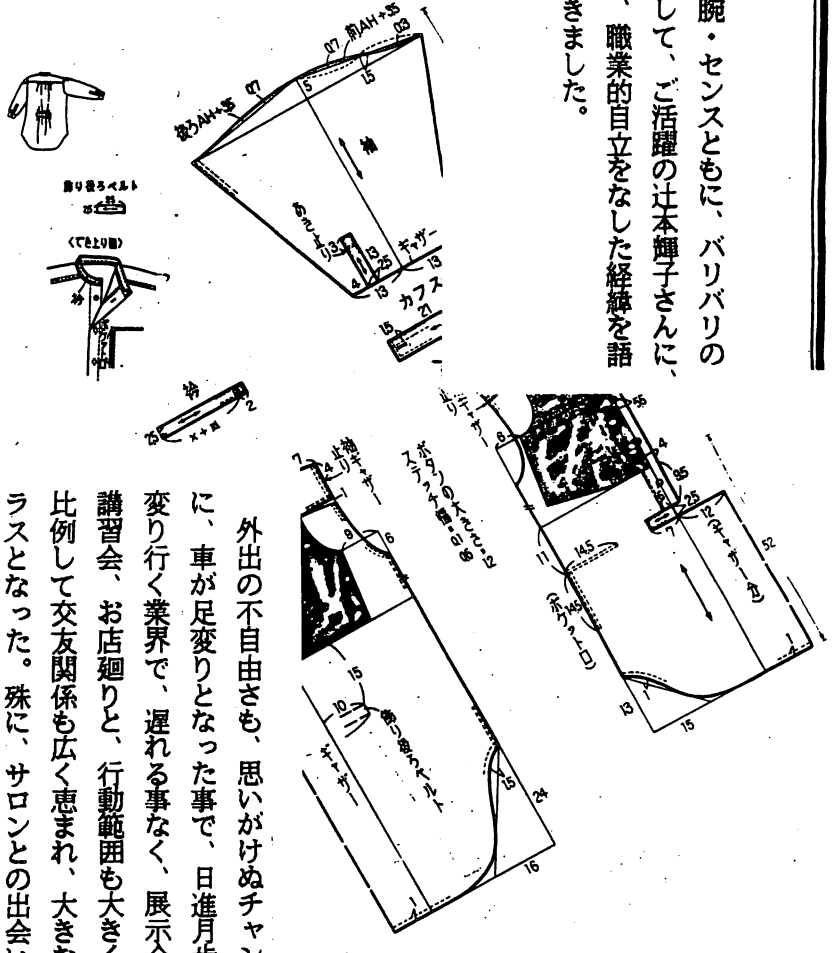
ハンディを肥に

辻本輝子

「自立」とは響きは良いが、私には重みのある言葉だ。「まいど」と、軽く電話の応対も身に付いた。洋裁を一生の伴侶と選ぶ迄悩んだが、この道こそ、我を生かす道なし、と決した時点で、甘えは捨て、人並以上にと、技術の習得に専念した。幸いに身近かで、良き指導者・協力者に恵まれた。

初歩の頃は、お客様の難しい注文や専門家の厳格なメガネに適う迄、寝る間も惜しんで、挫折は味いたくないと、踏ん張った。

仕事以上に、対人関係は難しく、円滑なお付き合いを持ちたいと、気くばり、思いやりにと、ハンディを肥にがんばれた。



外出の不自由さも、思いがけぬチャンスに、車が足変りとなった事で、日進月歩、変り行く業界で、遅れる事なく、展示会、講習会、お店廻りと、行動範囲も大きく、比例して交友関係も広く恵まれ、大きなプラスとなった。殊に、サロンとの出会いで違った社会の窓を勉強出来た事は大きな喜びだ。誰の言葉か忘れたが、人生訓として「日々ベストを尽くせば人生に逆転は生れる」を期待し、なぜ、どうしてと、勉強を忘れず、社会参加して行きたいと思います。

THE DEAF MUTE

10

旭　純子

5. ろうあ者の日常生活をめぐるそのほかの問題点

日常生活において電話が使用できないことは、生活上の困難を一層大きくする。些細な連絡のためにわざわざ足を運ばねばならなかったり、健聴者に電話を依頼することによって、個人のプライバシーが守れないこともあり、さらに連絡内容の行き違いでトラブルを生じることも多い。近年、聴覚障害者用の電話が種々開発され、昭和五十九年度からはミニファックスが厚生省の日常生活用具に指定されるようになったが、所得制限などのため普及は不十分な状況にある。

交通機関の利用に際しても、車内や駅構内のアナウンスが聞こえないことの不便は数多く、危険や不安は常に付きまとう。地震や火事、災害時の情報伝達、避難誘導の方法などもろうあ者対策としては、ほとんど未整備な状態である。

このように、ろうあ者をめぐる生活上の問題点は、あらゆる場面で様々な形で現れる。ろうあ者のコミュニケーション障害は、人間関係の障害でもあり、多くは社会において孤立無援に陥ったり、人間としての基本的権利を保証されないといった重大な危険性を持つ。ろうあ者にとっての障害は単に聞こえない、話せないだけでなく、そこから派生する基礎学力や社会性の育成の阻害、情報の欠落、人間性の歪み、社会参加の困難などの二次的、三次的障害をも含むのである。これがまさに「ろうあ者固有の社会的障害」であるといえるが、聴覚障害は外見上障害が捉えにくく、障害の深刻さに対する社会の認識が得にくいため、障害の状態が即、ろうあ者の特徴のごとく皮相的観念から捉えられがちな面も多分に有している。

阿倍野区ボランティア交流会（第二回）

――地域福祉をみんなの手で――

阿倍野区ボランティア交流会（第二回）が昭和六十二年十二月九日（水）午後一時より育徳コミュニティーセンター一階ホールで、開催されました。

当日はあいにくの雨となりましたが、ボランティアグループ（十四グループ）と地域婦人会・保健所の方々等の参加を得て、

七十余名の出席が有りました。阿倍野区ボランティア連絡協議会の井上範子さんの開会の挨拶の後、第一部の講演が始まりました。講師は佐藤宣三郎（大和川園々長）先生。「ボランティアと地域」についてお話しがありました。今、地域では家族生活が崩れ核家族・家族の無い独居生活が増してきている。その中でのボランティア活動についてのお話しでした。自己犠牲のボランティア活動であってはいけない、対象者と共に自分も成長していく為の活動となるように。又、福祉という言葉も平たく云えば、お互いにコミュニケーションのある人間らしい生活を送ることであるという言葉が、印象に残りました。

第二部は、出席者が七グループに分かれて、佐藤先生のお話しを基に各々の活動経験を交えて話しあいました。その後、各グループの発表があり、佐藤先生より、各々にアドバイスをいただきました。予定時間をオーバーしてボランティア交流会は、和やかな談笑と温かい余韻を残して終りました。サロン・あべのからは、五名が参加しました。

（T）

編集後記

年をしめくくるサロン・あべの恒例のクリスマス会は、手づくりのあたたかいムード、なんともなごやかなムードのうちに、終りました。今年はたくさんのことがありました。サロン・あべの紙が優良賞受賞。昨年につづいて助成金の交付を受ける。今年のメインテーマ「結婚」を五月、六月、九月の三回に渡って、いろいろな角度から堀りさげたこと。初のスポーツの出会いをもったのも今年でした。みなさまのお力でいろいろな出会いがもて、こころふれあうことが出来ました。クリスマス会の終ったとき、最後に蛍の光をみんなで合唱し「この感じがサロンやで…」というのが聞えました。

阪田富子様、藤野和美様に切手をいただきました。ありがとうございました。

（石）

メリークリスマス

手話サークル「文の里」

阿倍野区聴言障害者協会と、手話サークル「文の里」の主催するクリスマス会が１２月１３日１２時から長池幼稚園で開かれた。手品、踊り、ゲーム、手話コーラス、寸劇、漫才、おまけに来年の運勢占いまであって盛だくさんのプログラムで楽しいひとゝきを過ごした。障害者、サークルの人、手話講習会の受講生等がまったくひとつになっての企画、進行は見事なものだった。

＜サロン・あべの＞第１９号
発行日　昭和６３年　１月１６日（土）
発行・編集＜サロン・あべの＞運営委員会
［大阪市阿倍野区阪南町6-3-26
電話(06)691-1028冨田慶子］
印　刷　セルフ社　電話（06)652-0337